

# 新城小 UD

## 学習のねらいを明確にするための焦点化のポイント

### 単元構想の工夫

#### 単元づくり

- 付けさせたい力（読み取る、要約するなど）を明確にする。
- 児童の初発の感想や疑問等を生かして単元を組み立てる。
- 前時までの学習のつながりや山場までの流れを確認して、各時間を設定する。
- ゴールとなる言語活動に向けて、必要な内容を押さえながら読み取りの学習を進める。
- 単元を通して、または、1単位時間においてのねらいの達成につながる言語活動を設定する。

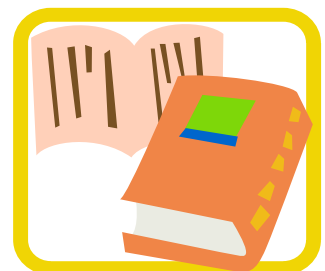


#### ◎言語活動の例

- |            |                      |                       |                                     |
|------------|----------------------|-----------------------|-------------------------------------|
| <b>物語文</b> | ・感想の伝え合い<br>・主人公への手紙 | ・あらすじの記述<br>・関連する本の紹介 | ・リーフレット<br>・音読劇<br>・続き話やサイドストーリー など |
| <b>説明文</b> | ・文章の要旨のまとめ<br>・紹介カード | ・意見文の記述<br>・リーフレット    | ・他の事例の検討<br>・プレゼンテーション など           |

#### 1 単位時間の授業づくり

- 物** 読みの視点（主人公、その他の登場人物、作者など）を設定して、多様な角度から物語を読ませる。
- 説** 多様な読み方（確認読み、解釈読み、評価読み）により、文章について深く考えさせる。
- 考えを交流する時間を計画的に設定する。
- 場面や段落ごとに読み取ったことを授業の導入や言語活動の前に振り返る時間を設定する。
- 授業における難所を予想し、扱う場面や内容を絞り込む。



## 学習課題・発問の精選

### 焦点化を図るための学習課題

- 物語文では「気持ち」「様子」「わけ」など、説明文では「工夫」「意図」「効果」など、考えさせたいことを明確にしたもの
- 分かりやすい言葉や教科書で使われている言葉を用い、児童が捉えやすいもの
- 達成できたかをはっきりと振り返られるようなもの

### ねらいに結び付けるための発問の工夫

- 考えと叙述を結び付けたり、叙述を振り返ったりする発問

例)「どこに書いてありましたか」  
「どの言葉から考えましたか」 など

- 根拠を明確にして、考えを深められるような発問

例)「なぜ、そう考えましたか」 など

- 児童が自分の考えを持ちやすいような工夫

例) Which 型発問, 選択肢 など

- 物**空所や変容を考えさせる発問

例)「どこで変わりましたか」 など  
\*空所・・・様子や気持ちが書かれていないところ

- 国語科の見方、考え方を働かせる発問

例)「この言葉からどんな印象を受けますか」  
「段落の順番を入れ替えるとどうですか」  
「この文は本当に必要な文ですか」など

- 説**筆者(書き手)と読者(読み手)の关系到気付かせる発問

例)「筆者の説明にはどんな工夫がありますか」  
「読者にどんな印象を与えますか」 など

### ◎学習課題で使う「教科書で使われている言葉」の例

<b>物語文</b>	○気持ち(1~6年)	○様子(1~6年)	○出来事(3~6年)
	○わけ(1~3年)	○理由(4~6年)	
<b>説明文</b>	○書き手・読み手(3~6年)	○工夫(2~6年)	○目的(4~6年)
	○効果(4~6年)	○意図(5・6年)	

### ◎達成できたかを振り返らせる観点の例

- ・めあてを達成できたか(◎, ○, △でも OK)
- ・よかったと思った友達の考え
- ・次の時間に考えたいこと(学びたいこと)
- ・学習したことをこれからどのように生かしていきたいか
- ・できたこと(分かったこと)